

ノミ・ダニ予防について

《覚えておきたいノミ・ダニ予防について》

- ① 月1回の効果的な予防を行いましょう。室内飼育でも予防が必要です。
- ② 予防期間は東京で3月頃～12月頃まで。環境によって予防期間は変更しましょう。
- ③ 予防薬は滴下薬または内服薬があり、お薬はその仔の状態を選択しましょう。
- ④ 予防薬には合剤もあります。何の予防を行っているか把握しましょう。
- ⑤ 市販薬・ノミ取りシャンプーは効果不十分のことが多いので注意しましょう。
- ⑥ ノミ・ダニは刺すだけではありません。引き連れてくるいろんな病気を知っておきましょう。

① 月1回の効果的な予防を行いましょう。室内飼育でも予防が必要です。

滴下薬によっては、ノミには2～3ヶ月効果があると明記されているものもありますが、効果の減弱・薬剤耐性をもつノミの増加・ノミの多量寄生による効果不足などを考慮すると月1回の投与が推奨です。『室内飼育だから大丈夫』『草むらに入らないから大丈夫』とお話をいただくことが多いですが、ノミ・ダニは屋外のどこにでも存在すること、衣類や靴に付着し屋内の布製品などに移行することを考えると、室内飼育であっても予防は必要です。

② 予防期間は東京で3月中旬頃～12月頃まで。環境によって予防期間は変更しましょう。

ノミ・ダニは気温が13度を超えると活動が活発化し、繁殖可能になります。したがって東京では、3月頃から予防を開始しなければなりません。しかしながら、周りの環境に野良猫が多かったり、草むらが多かったり、また感染が認められた年は自宅内で繁殖してしまうリスクも考慮し1年中の予防が推奨されます。特に動物の体表面やおうちの中は温度が高いためにノミ・ダニが活発化しやすく、年中繁殖できる環境になってしまいます。したがって定期的におうちでバルサンを炊いていただくことも推奨しています。ただしバルサンはノミ・ダニの卵には全く効果がありませんので卵が孵ってから（1週間ほど空けて）もう1回バルサンを行う必要があります。

③ 予防薬は滴下薬または内服薬があり、お薬はその仔の状態を選択しましょう。

④ 予防薬には合剤もあります。何の予防を行っているか把握しましょう。

⑤ 市販薬・ノミ取りシャンプーは効果不十分のことが多いので注意しましょう。

市販薬のノミ・ダニ予防薬は同じ成分のものでも効果が不十分なことが多く、お奨めできません。動物病院で処方されるノミ・ダニの予防薬には様々なものがあります。また動物病院処方薬もその仔の状態によって薬を選択しましょう。例えば、滴下薬でよだれが出てしまったり嘔吐してしまったりする仔であれば内服薬が推奨されます。逆もまたしかりです。他にも周辺環境や飼育環境を考慮して選択されることが推奨されますので、お気軽にご相談ください。

また予防薬の中には、他の寄生虫疾患に効果があるものもあり、合剤を選択される場合もあります。良い点は多岐の疾患に対してひとつのお薬で済むので簡便であることと経済的に費用を抑えることができることです。ただ合剤の難点は、そのお薬が効かなかったり投薬に失敗したりすると全ての疾患の予防や駆虫ができないということ、合剤にすることでひとつひとつの予防効果の低下の可能性があることです。簡便なりの短所ですね。

以下に、滴下薬と内服薬の長所短所・副作用及び薬の種類と効果についてまとめました。

<滴下薬と内服薬の長所短所・副作用>

	効き方	副作用	長所	短所
滴下薬	お薬が毛穴から吸収されて24時間以内に全身の皮脂腺に移行。その後全身の毛穴から徐々にお薬が分泌され、1ヶ月間効果が持続	流涎(よだれが出る) 嘔吐 皮膚炎	・投与が簡便。 ・寄生虫に効果がある薬剤もあり。	・効果不十分のこともあり。(効果発現に時間がかかる) ・塗布直後に触ると効果減弱。 ・塗布後、犬では1日間、猫では2日間シャンプーできない。
内服薬	お薬が吸収されると全身の皮下脂肪組織に分布。ノミダニが吸血時にお薬を取り込み駆虫。30分から効果が発現し、4時間で完全駆除します。効果は1ヶ月間持続。	嘔吐	・高い効果を発揮。 ・効果発現も早い。 ・シャンプーなどの制限なし。	・投薬の煩雑さ。 ・嘔吐による薬剤吸収不良。

<薬の種類と効果>

	製品名	外部寄生虫						消化管内寄生虫			犬糸状虫
		ノミ		マダニ	シラミ	耳ダニ	疥癬	犬回虫	犬鉤虫	犬鞭虫	フィラリア
		成虫	卵・幼虫		ハジラミ						
滴下薬	フロントライン	○		○							
	フロントラインプラス	○	○	○	○						
	レボリューション	○	○			○	(○)				○
錠剤	パノラミス	○	○産卵前に駆除	○(犬)				○	○	○	○
	コンフォティス	○	○産卵前に駆除	○							

(○):薬用成分セラメクチンを2週間に1回の滴下を計3回(6週間)行うことで、疥癬を完全に駆虫する効果があるという報告があります。正式な効能書に記載されていません。

⑥ ノミ・ダニは刺すだけではありません。引き連れてくるいろんな病気を知っておきましょう。

ノミ・ダニに刺されて痒くなる・皮膚炎になってしまうということをご存知の方は多いようですが、その他の疾患についてはご存知ない方も多く、重要な病気やヒトにも感染する病気があるので知っておきましょう。

ノミ・ダニによる痒みに関して

ノミ・ダニによる痒みは様々な要因で引き起こされます。

1) 一次接触性皮膚炎

ノミ・ダニの寄生で触れることによる引き起こされる皮膚炎です。アレルギーとは無関係で、ノミ・ダニが皮膚上を歩く刺激や細菌が付着した刺激、ノミ・ダニの老廃物付着の刺激などで引き起こされます。

2) 刺咬症

ノミ・ダニが吸血するために刺された時に引き起こされる皮膚炎です。吸血した血液が固まらないような働きをするノミ・ダニの唾液によって引き起こされると言われています。

3) アレルギー性皮膚炎

ノミ・ダニ自体やその老廃物などの抗原に接触し感作が起こり、アレルギーが引き起こされる皮膚炎です。これはノミ・ダニの死骸でも反応してしまいます。また一度反応がおこるとノミ・ダニの抗原がなくなっても反応が継続してしまい、お薬で反応を抑えないと痒みのコントロールが効かない場合があります。

ノミによって感染してしまう消化管内寄生虫

瓜実条虫（サナダムシ）

条虫の卵を宿したノミを食べてしまうことにより引き起こされる寄生虫病です。下痢や嘔吐の症状があります。肛門付近に米粒のような白い小さな塊（瓜実条虫の片節：からだの一部）が付着していることで見つかることもあります。多くのノミの感染が認められた場合にはご相談で駆虫薬を処方させていただきます場合もあります。

ノミ・ダニによる貧血

ノミ・ダニに多量に寄生されると、吸血により貧血が引き起こされることがあります。特に仔猫で多く、衰弱した仔猫で多量に寄生されると貧血により亡くなってしまうこともあります。

ノミによる感染症

猫ひっかき病

バルトネラ属の細菌感染症です。寄生しているノミやネコの爪・口腔内に存在します。感染したネコに引っ掻かれたり、咬まれたりすることでヒトが感染します。通常、数日から数週間の潜伏期を経て、発疹・発赤などの皮膚症状、発熱、リンパ節の腫れなどが症状として現れます。

ダニによる感染症

ダニが媒介する感染症は多く、重篤の病態を呈する感染症ばかりです。また海外のみの報告で、日本では発症報告がないものもあります。

1) バベシア症（ピロプラズマ症）

バベシア属の原虫感染を原因とする感染症です。マダニの吸血時に出す唾液から感染します。血液中の赤血球が崩れてしまい、重度の貧血（溶血性貧血）が起こる怖い病気です。その他の症状は、血色素尿、黄疸、脾臓の腫大、元気消失、食欲不振、嘔吐・下痢、発熱、血小板の減少、紫斑（皮下出血）、リンパ節腫大、浮腫、腹水（腹部膨満）など多岐にわたり重篤な症状発現し、最悪死に至ります。初期感染から回復しても、身体の中から完全に原虫を排除することは難しく、多くの場合が症状はありませんが原虫を保有している状態（無症候性キャリアー）になります。

イヌのバベシア症がヒトに感染することはありません。ヒトのバベシア症は日本では確認されていませんでしたが、1999年に神戸でヒトのバベシア症が見つかりました。しかしそれは、イヌのバベシア症の原因原虫ではありません。またその後、日本でのヒトでの感染報告はありません。

2) リケッチア感染症（イヌ；エールリヒア症、ヒト；日本紅班熱）

リケッチアという細菌の仲間（細菌より小さい）の感染を原因とする感染症です。リケッチアを保有しているマダニに刺されることで感染します。症状は高熱、発赤、頭痛などです。ヒトからヒトへの感染はありません。イヌのエールリヒア症がヒトにうつることもありません。

3) 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

ヒトの感染症で、SFTS ウイルスの感染を原因とする感染症です。2011年に初めてウイルスが特定され、このウイルスを保有しているフタトゲチマダニなどのマダニに刺されることによって感染します。また感染患者の血液・体液からの接触感染の報告もあります。今のところ、ヒトのみの感染症であり、動物を介しての感染は認められていません。日本では2013年1月に初めて SFTS ウイルスによる感染症例が確認されています。潜伏期間は6日～14日間で、発熱、倦怠感、食欲低下、嘔吐、下痢、腹痛、頭痛、筋肉痛、けいれん、神経症状、出血症状（血尿、皮下出血、下血など）などが症状としてあらわれます。

その他にも、ライム病やQ熱などマダニが媒介する重度感染症があります。

このようにノミやダニは犬・猫だけでなく人の生活にも影響してしまいますので徹底した正しい予防を実践していきましょう。